

本島通信

本島大教会 春季大祭神楽講話 (要旨)

【立教183年1月22日】

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
 電話 0877-27-3321 (代)
 本島通信編集室 R.200124-0127-20
 奈良県天理市指柳町 270-1
 本島詰所 〒632-0093
 電話 0743-63-1571 (呼)
 Email: news@honjima.com
 発行部数: 891部 (先月比±0)
大教会 朝夕おつとめ時間
 [2月1日~2月15日]
 朝づとめ 午前6時45分
 夕づとめ 午後6時15分
 [2月16日~3月31日]
 朝づとめ 午前6時45分
 夕づとめ 午後6時30分

「基本」に立って お道を歩ませて頂こう

本島大教会長 片山幹太 かたやまかんた

あけましておめでとございます。旧年中は共にお道の御用に励ませて頂き、ありがとうございます。本年も心を揃え一層勇んで、教祖のお導きを

頼りに、努めさせて頂きたいと思えます。

只今は滞りなくおつとめを勤めさせて頂きました。重ねてお礼を申し上げます。これより思いますことをお話しいたしますので、よろしくお願いいたします。

本年1月4日の本部年頭会議では、真柱様より2年ぶりに直接お言葉を頂きました。

私は真柱様が、お言葉の中で「私たちの基本」と仰せられたことが心に刺さりました。

そこで今年一年、私たちの基本とは何なのか、深く思索しながら歩ませて頂きたいと思いました。そして、このお話も「基本」ということを心の片隅に置いてお聞き頂けたらと思います。

まず、おたすけの基本について。私たちがよく、教祖の道具衆として、教祖のお供をさせて頂くことにあると思います。

教祖は明治20年陰暦正月26日、現身を隠され、世界だすけへと扉を開かれました。私たちは、どこへ行っても常に教祖のお供をさせて頂くのだという自覚をもって、おたすけにかからせて頂きましょう。

教祖が側にいらつしやるのですから、こちらは、おたすけをする側のようでも、実は相手からいろいろ学ばせて頂くことがあるのではないかと思います。むしろ教祖が、その身上の方を通して私たちに、何かを学ばせてやろう、成人のきっかけを与えてやろうと思召されているように思うことがあります。

ある病院へおたすけに行かせてもらったときのことです。その方は「毎日、ベッドからで申し訳ないのですが、おちばの方を向いて、朝夕のおつとめを勤めています。朝づとめのときは「ありがとうございます」、夕づとめのと

きは「よろしく願います」と申し上げています」とのことでした。

その方は90歳で、熱心にお道を通って来られた方です。いつ出直すのか分からない、生きているのがご守護たという心で居られるのではないのでしょうか。

普通なら、朝起きたとき「よろしく願います」、夕べに「ありがとうございます」と思うのですが、その方は「寝ている間も身体の隅々までお働き下さい」という神様への願いが込められているから、朝、目覚めたときに「生かされている、ありがとうございます」という心になっているのでしょうか。

私も常に親神様、教祖に見守られ、ご守護の中で生かされていることを心に置いて日々を通らせて頂きたいと思えました。

20年以上前の話になりますが、長女が丸亀の病院で生まれたときのことです。私は真柱様に命名をお願いしたい一心で、早速天理に帰らせて頂き、詰所の玄関を出るとき、コズエお祖母さんから「あんたちょっと待って！」と呼び止められました。「あんた、どこへ行くの」

私は内心、さつき娘が生まれたことを言っただけではないかと思いが



ら、「真柱様にお願ひに行つてきます」と答えましたら、「違つてしょ」とバツサリ言われました。そして、

「まずはかんろだ、親神様にお礼を申し上げなさい」と叱つてくれたのです。

それは当たり前前で、私たちの基本です。でも、自分のことばかり考へているときは、そんな基本を失念してしまふことがあります。せつかくおぢばへ帰つてゐるのに、参拜せずにお願ひに行くとはどういうことかと、コズエお祖母さんは思つていたのではないでしようか。私はこの順序を間違へなくて良かったと、今でも反省と感謝の気持ちでおります。

少し話を交えますが、みかぐらうた七下り目に

ひとことはなしハひのきしんにほひばかりをかけておくとあります。

「一言話しはひのきしん」ですから、「一つお話を取次がせて頂くのはひのきしんだ」と解釈できます。

でも世話人の宮森先生から、「もう一つ思案出来ることあると思う」とした上で、「ひと話をやる内容は、ひのきしんについて話すのだよ」と言

われました。

私はなるほどと思いました。

ひのきしんとは、私たちの信仰実践そのものです。

そのひのきしんの手振りは、掃除や皿洗い、草抜きのような動作ではありません。腕を振りかぶつて走るような動作の手です。どこに向かつてゐるか、それは親神様(おぢば)でしょう。

教祖伝逸話篇には、おぢばへ帰る話がたくさん残されていますが、その中に「雪の日」という逸話があります。

明治八、九年頃、増井りん先生が信心しはじめて、熱心にお屋敷帰りの最中のお話です。大雪の中、冷え切つた身体でなんとかお屋敷にたどり着いたりん先生に、教祖は

「ようこそ帰つて来たなあ。親神が手を引いて連れて帰つたのやで。あちらにてもこちらにても滑つて、難儀やつたなあ、その中にて喜んでいたなあ。さあ、親神が十分々々受け取るで。どんな事も皆受け取る。守護するで。楽しい、楽しい、楽しい」と、仰せられて、りんの冷え切つた手を、両方のお手で、しっかりと握り下された。

それは、ちょうど火鉢の上に手をあてたと言うか、何んとも言いあら

わしよのない温かみを感じて、勿体ないやら有難いやらで、りんは胸が一杯になった。

と記されています。

教祖はおぢばへ帰ってくる子どもへ「どんな事も皆受け取る。守護するで。楽しい、楽しい、楽しい」と、両手を広げてお待ち下さつてゐるのです。

そこで、おぢばに向かつて、私は皆さんと同じ思いにならせて頂きたいことが三つあります。

一つ目は、おぢばに伏せ込むこと。
二つ目は、おぢばの役に立つこと。
三つ目は、おぢばを帰るところにすること。

本島では繰り返し語り伝えられてゐることですが、昭和6年から9年にかけて行われた本部の昭和普請において、本島は越乃國大教会のもと全力で石材一切の献納(献石)に伏せ込みました。それから30年後、大教会神殿ふしんが行われましたが、結果的にこの神殿が相当な岩盤の上に建てられてゐることが分かり、半世紀以上経つた現在も寸部の狂いなく盤石(ばんせき)であります。

きつと昭和初期に献石をされた先人は、親孝心とご恩報じの一念で伏せ込まれたのだと思いますが、結果的に次

世代の私たちが確かなものをお与へ頂いてゐるのです。

おふでさき号外に、

にちづくに心つくしたものだねを神がたしかにうけとりてゐる

しんぢつに神のうけとるものだねわいつになりてもくさるめわなし
たんく、このものだねがはへたならこれまつだいのこふきなるそやとあります。

伏せ込んだ真実の種は、腐ることはないとお教え頂きます。

私は親の教育方針から、小学校時代は神戸のアメリカンスクールに通ひました。学校は土日が休みなので、金曜日の夜から日曜日までは天理の詰所に帰ることが多かつたです。

天理では土曜日の朝、コズエお祖母さんは私を連れて南礼拝場へ行き、おつとめを勤めます。私は子供ながら、お祖母さんとおつとめを勤めた後、その場から教祖殿と祖霊殿を遙拝したらラッキーだと思つてゐたのですが、そんなことはなく、お布巾(ふきん)を手にして廻廊拭きをしながら教祖殿と祖霊殿を参拝するのが常でした。

今思い返すと、お祖母さんにとつて、本部神殿は親神様、教祖、祖霊様にお礼の参拝をするのはもちろんのこと、おぢ

ばは人間の故郷ふるさとなので、帰ってきたら少しでも親のため掃除をするなり伏せ込ませてもらった所であることを、身をもって孫の私に教えてくれたように思います。そして今になってそれがとても有難いことだったと思っています。

「おぢばを帰るところにすること」とは、帰る心になるために、一度おぢばに住む必要があると思うのです。

親里管内の学校で学ぶことや、本部や詰所で勤務することも大切ですが、なかなか誰しもができることではありません。

だからこそ3ヶ月の修養科が必要になります。

これからも積極的に修養科へ志願するよう丹精し、おぢばを帰るところと実感できる人を増やしていきたいでしょう。

おぢばは、この世元初まりにおいて初めて人間を宿し込まれた場所であり、親神様がお鎮まり下さるところであり、よろづたすけのつとめ場所でもあります。そのかぐらづとめの理を受けて、教会では月次祭が執り行われます。

おさしづに、

月次祭々々々と言つて、皆楽しんで来る。楽しんで参る／＼と言つて、

所々月次祭楽しんで来るは、道の土台である／＼。(明治33・10・16)

月次祭は真剣に、厳かに勤めさせて頂くことはもちろんであります。同時に、楽しい月次祭を勤めさせて頂くことが道の土台であるとお教え頂きます。

教祖50年のひながたの道の集大成は、おつとめを勤めることにありました。その月に一度の月次祭が、楽しみで仕方がないと思える祭典になるよう心がけて行きましょう。

2年後の大教会創立120周年記念祭も、楽しみで帰らずにはられない記念祭を目指したいのです。そのためには、婦参者全員が出演者(プレーヤー)となり、我がこととして楽しめるように努めさせて頂きましょう。

次に婦人会です。

今年の4月19日は天理教婦人会創立110周年記念総会があります。

婦人会では成人目標に「ひながたを辿り、陽気ぐらしの台となりましょう」と掲げています。

教祖ひながたの道を常に求めること、そして陽気ぐらしの台でありますから、いつでもどこでも陽気ぐらしの発信源となるよう、温かい人になるよう、努めさせて頂きましょう。

当日、真柱様として婦人会長様のお言葉を直接聞かせて頂くことが何より

大切です。その理を心に治めるためにも、澄み切った心でお言葉を頂く状態を作つて、聞かせて頂きましょう。

最後に、成人目標の中に「初席者、また、中席者を丹精して満席へ」「道の将来を担う人材の育成」とあります。

おさしづに、

もう順序一人先に立つて、後々育てるがこの道。(明治31・9・19)とあります。

別席は、おさづけの理を拝戴する心になるために、神様のお話を繰り返して九度聞かせて頂くのですが、教典第九章には次の通り記されています。

かくて、引き寄せられて親里に帰り、別席順序を運ぶ。だんだんの席を重ね、話の理によつてほこりを払い、行を正すうちに、心は澄んで、たすかりたいとの願は、たすかつて貰いたいとの念となる。そこに、さづけの理が授けられて、心は生れかわる。さづけの理は、よふばくたる銘々の心に授けられる天の与えである。このさづけの理が心に治つて、初めて、こうのうを見せて頂ける。

別席順序を運ぶことは、おさづけの理を頂くためですが、大切なことは話の理によつて心のほこりを払い、たす

かりたい心から人がたすかつて貰いたい心になることです。

おさづけの理は、現在こちらの希望日通りに戴くことはかきません。それでも真柱様は体調に合わせて一度に運べる人数を9人から15人に増やして下さい、少しずつ元に戻っているようにお見受けしております。

おさづけの理を戴くための心の丹精が大切ですので、これもしっかりと努めさせて頂きましょう。

そして「道の将来を担う人材の育成」と掲げていますが、教祖150年祭、立教200年まで、あと16年です。その三年千日となれば、わずか13年後となります。13年後となれば、10歳の子は23歳、20歳の人には33歳と働き盛りになります。少年会員である今から将来を意識して、丹精してまいります。

今日は、真柱様が仰せられた「私たちの基本」を心に置いて、お話させて頂きました。

教祖のお供をさせて頂く自覚のもと、おぢばに伏せ込み、役立ち、おぢばに一人でもお連れして帰らせて頂きましょう。

ご清聴ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

春季大祭祭典役割

献饗長 片山勲
伝 供 大西知・永山晴明・吉田晴雄・岡崎八十則・向所隆文・永島宗行・後藤正治・奥村龍夫・伊東康成・長濱充憲・高島栄造・宮路和徳・茶屋原良昭・肥後章・渡部友見・鎌田典夫・西森正昭・位下道治・山下英久・須崎晴道・
 村田輝夫・河村旬一・星久・本田政勝・上山康雄・木村大喜・溝口晋太郎・倉嶋孝明
雅楽奉仕者 文園育則・高垣光治・雲庵春彦・大矢万三・長尾海和・岩橋守行・鎌田康典・片山幹太郎(順不同)

| 祭主 指図方 | 大教会長 | | 座りづとめ | | てをどり前平 | | てをどり後平 | |
|------------------------|------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---|-----------------------|---|
| | 大教会長 | 座りづとめ | 厩者 | てをどり前平 | 厩者 | てをどり後平 | 厩者 | てをどり後平 |
| 岩橋慶三 老木邦光 | 岡崎俊郎 岩橋慶三 老木邦光 | 長谷川邦昭 岡崎マージン | 岩橋竜造 後藤正治 長濱充憲 | 大上道徳 高垣光治 倉嶋孝明 | 大西知 伊東康成 | 伊東康成 雲庵春彦 岩橋守行 宮本幸子 岡崎むつゑ 原口和子 | 大西知 伊東康成 | 伊東康成 雲庵春彦 岩橋守行 宮本幸子 岡崎むつゑ 原口和子 |
| 寺本教生 西山道教 岡崎マージン | 寺本教生 西山道教 岡崎マージン | 岩橋元博 高島栄造 窪田靖明 | 岩橋元博 高島栄造 窪田靖明 | 吉田知彦 田中丸勝也 鎌田典夫 | 吉田知彦 田中丸勝也 鎌田典夫 | 吉田知彦 田中丸勝也 鎌田典夫 | 吉田知彦 田中丸勝也 鎌田典夫 | |
| 奥村龍夫 長谷川邦昭 井上哲 | 奥村龍夫 長谷川邦昭 井上哲 | 大矢万三 位下道治 井上力 | 大矢万三 位下道治 井上力 | 大矢万三 位下道治 井上力 | 大矢万三 位下道治 井上力 | 大矢万三 位下道治 井上力 | 大矢万三 位下道治 井上力 | |
| 片山榮 向所暉美子 井上みつの | 片山榮 向所暉美子 井上みつの | 岩橋元実 雲庵まち子 和田敏恵 | 岩橋元実 雲庵まち子 和田敏恵 | 老木和美 梅木澄代 上田敬子 | 老木和美 梅木澄代 上田敬子 | 老木和美 梅木澄代 上田敬子 | 老木和美 梅木澄代 上田敬子 | |

春季大祭祭文

立教百八十三年一月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます。

親神様には、元始まりに、陽気ぐらしを見て共に楽しみたいとの思召から、この世人間をお創めになり、以来、長の年限、並々ならぬ御守護をもつてお育て下さると共に、約束の年限の到来により、教祖をやしんとして、この世の表にお現れになり、たすけ一条の道をつけて、成人の道をお連れ通り下さいます御慈愛の程は、誠に有難く勿体ない極みでございます。

私共はこの御厚恩にお応えすべく、日々勇んで持ち場立場のつとめに励ませて頂いておりますが、その中にも今日のこの月は教祖が人々の成人を急き込まれて現身をおかくしなされたゆかりの月でございますので、これに込められた深い思召に改めて心を込めて、只今より役目に与るおつとめ奉仕者一同、澄み切った心で一手一つに座りづとめ、てをどりを陽気に勇んでつとめ、春の大祭を執り行わせて頂きます。

御前には、今日の日を楽しみに、国の内外から帰り集いました大勢の教え子達が、日頃賜る厚き御守護への御礼と、尚も変らぬ親心のお導きを願ひ、共におうたを唱和し、つとめに勇む状をも御覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

尚、二年ぶりに頂戴した真柱様の「年頭あいさつ」において、真柱様は「私達の基本」とお述べ下さいました。改めて、私共一同、今一度、信仰姿勢を振り返り、後に続く人々に御教えの基本を映し伝えて参りたいと存じます。

何卒、この上共に自由の御守護を賜り、着実に陽気ぐらしへの歩を進め、活気溢れる道の姿をお見せ頂く事の出来ませう、御守護の程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。

(原文のまま)

入社祭

(立教183年1月22日)

▼本備前△矢延多津美△石井鼎次

【計2名】

1月22日(水)
【香川県丸亀市】

天候 曇後時々雨
 最低気温 3.3℃
 最高気温 10.4℃
 平均気圧 1026.5 hPa
 平均湿度 79%
 平均風速 1.7 m/s
 日照時間 0.8 時間
 降水量 6.5 mm

※ 降水量は一日の総雨量

「子弟の育成に力を注ごう」 教会長夫妻研修会 131名受講

教会長子弟育成委員会牧野道昭委員長)では、1月25日に詰所講堂において「子弟の育成に力を注ごう」をテーマに、立教183年教会長夫妻研修会を開催。昨年に続き、131名が受講しました。

講話は中臺勘治先生(日本橋部属・報徳分教会前会長)が登場し、「教会長子弟が育つには」と題して約1時間話をされました。

中臺先生は子弟育成のポイントとして2つ、「親が通っ



た道を子が通る」「親は確固たる信仰を持つ」を提示し、「代を重ねて行く」と信仰の有り難さが分からなくなっていく。親神様を信じて素直に通るところ、一つひとつ教えて頂く道があり、乗り越えて行く中に、確固たる信仰が身についてくる」とし、さらに「子弟は初めからお道の良さは分かっている。お道の有り難さや素晴らしさを伝えるには、初代がたすかった信仰の元一日を伝えることや、いんねんが変わっていく有り難さを伝えることが大切だ」と述べられました。

続く第2講では、「自信を持って教えを子弟に伝えるには?」「何故、おぢばに帰らせたいのか?」「この道の信仰がなぜ必要なのか?」などの設問について、さらに第1講の質疑について、中臺先生より「自分自身が、阿呆と



思われるような真実の道を通り、神様の不思議を感じる中に、自信が生まれてくる」「親神様のご守護を頂くには、おぢばがえりが大切。さらに教えを箒に、心の埃を払い、澄み切らせることが、たすかる道である」と答えられました。

その後、受講者は16班に分かれてふりかえりを行い、最後に大教会長がいさつに立ち、次の3つについて促されました。

一つ目は真柱様の年頭のお言葉から「私たちの基本、道を通り後に続く人をしっかりと育てていくうえにおいて、歩み方の中で基本となることを、



を、だいぶ忘れてしまっているのではないか。」「前真柱様はよく、この場で『去年よりも少しでも成人させてもらいたい』というようなことを、まずはお話し下さっていた。それは大切なことなので、惰性とか流れにまかせてしまわないように、つとめる」ことを引用され、この言葉を重く受け止めていくこと。

二つ目は、おぢばに伏せ込むことを常に意識し、おぢばの役に立つ通り方をすること。

三つ目は、講社祭の充実を心がけ、家族に心を配り、おたすけの心でかからせて頂くこと。

さらに大教会長は、「毎月26日は、夢の語り合いの日にしたい」とのべられました。



写真上)解体前のゴミ集積所
写真左)解体作業の様子

レッツゴー青年会

青年会本島分会(片山秀明委員長)では1月18日と19日に本島詰所において「レッツゴー青年会勇み隊」を実施。12名が集まりました。詰所裏のゴミ集積所の解体を行いました。

なお今後のゴミ集積所は、詰所南棟の西側にある旧クーリングタワーを使用する予定です。

鼓笛隊北海道地区合宿

本島団鼓笛隊(鎌田典夫部長)では、1月10日から13日まで、本権分教会(大上道徳会長、札幌市西区)を会場に第44回北海道地区冬季合宿を実施し、隊員5名、指導員4名、ひのきしん者7名が参加しました。

今年の北海道地方は暖冬により例年になく雪が少ない中での合宿となりました。

また、今年のメンバーは本隊だけでドリム隊員はなく、規律訓練とパート練習を繰り返して行いました。

12日はレクリエーションとして、雪の少ない丘でソリ遊びを楽しみました。

最終日は神殿において御供演奏を行い、エレメンタリーマーチなどマーチ3曲と、こどもおちばがえりテーマ曲「大好きなおちばへ」を演奏し、練習の成果を披露しました。

閉講式では、大教会長メッセージが届けられ、「本島鼓笛隊活動の基本となる目的



は、教外へののをいがけです。デイズニー出演に向けて、隊員、指導員、関係者の皆さんが心を合わせて邁進することによって、神様の後押しを頂き、その夢がかなうと信じております。今年も大きな楽しみを持って一手一つの和でいきましよう」と、この夏への目標が伝えられました。



なお指導員として、
鎌田典夫、
伊東賢太郎、
岡崎希恵の
3名が派遣
されました。

事情はいつ

(立教183年1月26日)

本廣分教会

任命願

新任教会長 白垣初生

臨時祭典願

就任奉告祭 立教183年4月11日

以上

修養科第943期修了

(立教183年1月27日修了)

御幸濱 後藤真也

本恵山 金田一郎

【計2名】

教人登録

(立教183年12月分)

御幸濱 後藤正樹

本米臺 内橋かおり

【計2名】

おとづけお取り次ぎ報告

(立教183年1月22日)

提出教会

24教会

報告数

1,238回

累計

1,238回

※前年同月累計比 20.5回減

証拠守り下附

(立教182年12月分)

本都2

【計2名】

ろくぢぢぢ

(立教183年1月分)

- ▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真美・幸太△藤山さちよ
 - ▼樺太分教会
 - ▼本権分教会
 - ▼本浜△片山清枝・正枝・誠
 - ▼本廣分教会
 - ▼崇徳分教会
 - ▼ポトランド教会△片山和信・陽子・昇慶
 - ▼シートツク教会
 - ▼カリラオルテ教会
- ご芳志に厚くお礼申し上げます

大教会長動向

▼2月(予定)▲

- 1日、本部神殿奉仕当番
- 3日、香川教区役職者会議
- 4日、教会長おやさど研修会
- 会議
- 5日、本部神殿奉仕当番
- 7日、本部神殿奉仕当番
- 11日、仁徳分教会巡教
- 13日、阿波本徳分教会巡教
- 16日、本攝分教会巡教
- 22日、大教会月次祭執行
- 24日、修養科総立まなび
- 25日、かなめ会委員会
- 26日、本部月次祭参拝
- 27日、かなめ会
- 28日、3月12日、海外巡教

以上



1月26日の本部春季大祭。明け方まで雨雲に覆われていたものの、祭典と同時に晴れ間が現れ、かぐらづとめで陽が差し、12下りてをどりでは青空が広がり、午後2時の神殿講話で再び厚い雲に覆われました。まさに神がかりのお天気でした。

立教 182 年

年間統計表(教会別)

| 教会名 | 別席の誓い | おさげの理拝戴 | 全課程履修 | 三日講習会 | 修養科修了 | 教人資格講習会修了 | 教員資格修了 | 証拠守り | をびや許し | 教会名 | 別席の誓い | おさげの理拝戴 | 全課程履修 | 三日講習会 | 修養科修了 | 教人資格講習会修了 | 教員資格修了 | 証拠守り | をびや許し |
|-----|-------|---------|-------|-------|-------|-----------|--------|------|-------|-----------|-------|---------|-------|-------|-------|-----------|--------|------|-------|
| 本本本 | 備廣 | 前島 | 1 | - | - | - | - | 1 | - | 栄東峰 | 1 | 1 | - | 3 | - | - | - | 3 | - |
| 本本本 | 府中 | 中国浦 | - | - | - | - | - | - | - | 霊實 | 2 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 府中 | 中国浦 | - | - | - | - | - | - | - | 大隅聖 | 1 | 1 | - | 1 | - | - | - | 1 | 2 |
| 本本本 | 沖木 | 尾尾 | - | - | - | - | - | - | - | 大松 | 2 | - | - | - | - | - | - | 4 | 1 |
| 本本本 | 馬木 | 尾尾 | - | - | - | - | - | - | - | 大駿 | 5 | - | - | - | - | - | - | 2 | 1 |
| 本本本 | 清 | 水徳 | - | - | - | - | - | - | - | 別松 | 3 | 1 | - | - | - | - | - | 4 | 1 |
| 本本本 | 崇与 | 島廣 | 1 | - | - | - | - | - | - | 吉松 | 5 | - | - | - | - | - | - | 4 | 1 |
| 本本本 | 本 | 廣勇 | - | - | - | - | - | - | - | 大英 | 3 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 本 | 高道 | - | - | - | - | 1 | - | - | 文峰 | 2 | - | - | 1 | - | - | - | - | 2 |
| 本本本 | 宣 | 徳波 | - | - | - | - | - | - | - | 肥後八 | 1 | 2 | - | - | - | - | - | 1 | 3 |
| 本本本 | 阿波 | 徳波 | - | - | - | - | - | - | - | 銀新 | 3 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 阿 | 波九 | - | - | - | - | - | - | - | 鶴善 | 3 | - | - | 1 | - | - | - | 1 | - |
| 本本本 | 小 | 倉山 | 1 | - | - | - | - | - | - | 都峰 | - | 1 | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 大 | 郷倉 | 1 | - | - | - | - | - | - | 仙ノル | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 新 | 倉陽 | - | - | - | - | - | - | - | ホカ | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 好 | 嘉唐 | - | - | - | - | - | - | - | カカ | - | - | - | - | - | - | - | 3 | - |
| 本本本 | 眞 | 新枝 | - | - | - | - | - | - | - | カラ | - | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 本本本 | 九 | 肥港 | - | - | - | - | - | - | - | 台 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 一 | 陽新 | - | - | - | - | - | - | - | キャスル | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 九 | 肥港 | - | - | - | - | - | - | - | ヒ | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 一 | 嘉唐 | - | - | - | - | - | - | - | ブ | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 九 | 肥港 | - | - | - | - | - | - | - | マウ | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 山 | 嘉唐 | - | - | - | - | - | - | - | イルク | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 千 | 嘉唐 | 1 | - | - | - | - | - | - | ポート | 5 | 3 | - | 1 | - | - | - | - | 1 |
| 本本本 | 九 | 嘉唐 | - | - | - | - | - | - | - | エヌ・シー | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 新 | 和台 | - | - | - | - | - | - | - | ウエスタン | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 新 | 和台 | - | - | - | - | - | - | - | マリナー | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 九 | 肥港 | - | - | - | - | - | - | - | イリノイ | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 豊 | 肥峰 | - | - | - | - | - | - | - | ミッドウエスト | 1 | 1 | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 赤 | 峰峰 | 3 | - | - | - | - | - | - | キャピタル | 1 | - | - | - | - | - | - | 2 | - |
| 本本本 | 雅 | 峰峰 | - | - | - | - | - | - | - | ザガバフィック | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 南 | 峰峰 | 1 | 1 | - | - | - | - | - | シアトル | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - |
| 本本本 | 吉 | 峰峰 | 3 | - | - | 1 | - | - | - | ハリウッド | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 神 | 峰峰 | 11 | - | - | - | - | - | - | ニューロサンゼルス | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 豪 | 峰峰 | 2 | - | - | - | 1 | - | - | ウィルソン | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 倉 | 峰峰 | 1 | - | - | - | - | - | - | ターミナル | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 栄 | 峰峰 | 3 | - | - | - | - | - | - | カリフォルニア | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 2 |
| 本本本 | 大 | 峰峰 | 2 | - | - | - | - | - | - | シータック | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 雄 | 峰峰 | 2 | - | - | 1 | - | - | - | トロン | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 雄 | 峰峰 | 1 | - | - | - | - | - | - | 本伯 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 栄 | 峰峰 | 3 | 1 | - | 1 | - | - | - | 不 | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 本本本 | 星 | 峰峰 | - | - | - | - | - | - | - | 合前 | 90 | 18 | 2 | 14 | 4 | 1 | 37 | 42 | |
| | | | | | | | | | | 年比 | -12 | -8 | -1 | -10 | -1 | -3 | -10 | +12 | |



立教183年学生生徒修養会大学の部

【学生会】

立教183年学生生徒修養会大学の部

- **期間**：3月3日(火)～9日(月)
- **受講資格**：令和2年1月8日現在、大学・短期大学・大学院・専門学校、高等専門学校(4年生以上)に在学し、全期間を通して受講できる者
- **受講人員**：700名(男女各350名)
- **内容**：講義、グループワーク、にをいがけ、ひのきしん、修練(おつとめ勉強)など。期間中に別席を1席運べる日あり
- **受講御供**：10,000円(うち半額が大教会ろくち会より助成されます)
- **受付期間**：令和2年1月8日～2月25日
- **申込方法**：受講願書1通、返信用封筒1枚(住所、氏名、郵便番号を記入し、84円切手を貼付)を整え、大教会長の署名・捺印を頂いて、学生担当委員会事務局へ
- **集合**：3月3日正午、本島詰所
- **解散**：3月9日午前10時頃、本島詰所
- **宿舎**：本部施設
- **注意点**：3月3日宿舎受付時に学生証の提示を求められます。お忘れなく
- **詳細**については大教会(池田さわみ)まで。また、受講願郵送の場合は本島詰所宛「学生担当委員会 横関茂治」と明記ください。

青年会ひのきしん隊

【青年会本島分会】

【ひのきしん隊3日隊】

- **期間**：2月14日午後3時から2月16日午前8時まで
- **詳細**については青年会本島分会委員まで

大教会表参道 植栽ひのきしん

【本島大教会】

- **期間**：3月7日(土) 8日(日)
- **内容**：表参道にアベリア苗木500本を植栽する作業です。

縦の伝道講習会

【少年会本島団】

- **日時**：3月22日(日)
大教会祭典終了後神殿講話として
- **講師**：宇恵善継先生(少年会本部委員・共成分教会長)

鼓笛隊春季合宿

【本島団鼓笛隊】

- **期間**：3月27日夕刻まで大教会集合、4月3日朝大教会出発
- **参加対象**：令和2年度の小学1年生より高校3年生(幼稚園児不可) ※初めての隊員もご参加できます
- **内容**：鼓笛練習、おつとめ練習、教話、神殿掃除、レクリエーション、墓前演奏
- **備考**：本隊(小学4年生以上)は集合写真・ビデオ撮影(本番同様)があります。本番用白靴(ブランドロゴの入っていない靴)をご持参ください。
※高校生と指導員(大学生・専門学校生)は春の学生おぢばがえりに参加し、別席を運びます
- **会場**：本島大教会
- **参加御供**：小中学生6千円、高校生7千円。別途お米1升または500円。フェリー代
- **お問合せ**は、鎌田典夫(06-6432-1727)まで

春の学生おぢばがえり

【本島学生会】

- **スローガン**：次代を担うようほくへ
- **期日**：3月27・28日
- **内容**：式典(28日午前10時本部中庭)、直属アワー、別席、27日前夜祭
- **参加対象**：高校生(新1年生を含む)、大学生、短期大学生、専門学校生、大学院生等
- **主催**：春の学生おぢばがえり実行委員会、天理教学生担当委員会

本島学生会 春の学生おぢばがえり

- **集合**：3月27日(金)午後3時
- **解散**：3月28日(土)午後4時30分
- **場所**：教会本部、本島詰所
- **参加御供**：1千円
- **連絡先**：本島詰所(0743-63-1571)担当 池田さわみ、片山香葉子、文岡えみ)

婦人会創立110周年記念総会

【婦人会本島支部】

- **天理教婦人会第102回総会**：
4月19日(日)午前10時より本部中庭・南礼拝場前、東礼拝場前、西境内地
 - **記念講演会**：
午後1時より全7会場
テーマ「陽気ぐらしへ向かう道」
 - **教祖へ手作りお供え**：
4月17日午後3時より18日午前7時まで、詰所北棟2階会議室で受付
 - **本島支部別席団参**：
4月18日午後席(午後2時30分より)、19日午後席(正午より)
 - **パワー結集! よろこびのパレード**：
4月18日夕づとめ後、別席場前から境内本所にかけて
 - **本島支部憩いの場(懇親会)**：
4月18日午後9時より詰所食堂
- 【諸注意】
- **宿泊、食事申込み、行事参加**は各々でお願いします。御供一委員部1千円と婦参報告をお願いします。本島支部のつどい、婦人会衣料バザーはありません。お問合せは婦人会庶務(片山孝代・伊東晴美・岡崎むつゑ)まで。別紙のアンケートと別席予定数を2枚まとめて直轄教会ごと2月22日までご提出下さい

2月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈本部食堂ひのきしん〉

- **期間**：2月16日～28日
- **派遣教会**：赤峰①
〈大教会・炊事ひのきしん〉
- **期間**：2月21日～22日
- **派遣教会**：安藝本中①、本高①、阿波本徳②
〈詰所・炊事ひのきしん〉
- **期間**：2月25日～26日
- **派遣教会**：本京②、本承徳①

にをいがけ名簿提出教会(1月)

| | | | | | |
|-----|----|-----|----|-------|----|
| 本島 | 0 | 本静森 | 4 | 雄福峰 | 20 |
| 本樺 | 15 | 本日米 | 4 | 雄山峰 | 10 |
| 本室 | 4 | 本千代 | 7 | 栄森峰 | 34 |
| 渋谷 | 20 | 本府中 | 2 | 栄星峰 | 5 |
| 本桶川 | 4 | 崇徳 | 6 | 栄東峰 | 27 |
| 代々木 | 7 | 本陽山 | 4 | 霊峰 | 9 |
| 本萬代 | 2 | 本新田 | 3 | 實峰 | 80 |
| 本都 | 64 | 赤峰 | 7 | 吉松峰 | 40 |
| 本京 | 20 | 豪峰 | 62 | 仙峰 | 17 |
| 本草 | 30 | 栄峰 | 23 | ハリウッド | 1 |
| 本恵明 | 3 | 大雄峰 | 40 | | |

計 32 教会 574 名